

「いじめ防止きずなキャンペーン」に思う

寒さが厳しくなってきましたが、皆さんの体調はどうでしょうか。校内では、3年生が進路説明会を実施し、いよいよこれから自分自身の進路実現に向き合う時がきました。1年生はずっと延期されていた校外学習が実施され、大きな行事が終了しました。無事に実施できた事は何よりの喜びです。2年生は学校を中心となり、生徒会活動や部活動等で前向きに取り組んでいます。それぞれの学年、学級、そして個人が小さい目標でも少しずつクリアしながら、前に進んでほしいと思います。その過程で、友達との人間関係がうまくいかなかったり、学習面で悩んだり、部活動の考え方で折り合いをつけられなかったりと、悩みも深くなってくる時期でもあります。

感染症と向き合いつつ、社会・経済活動も、学校生活もなんとか以前のように立て直そうとしていく過程でもあり、人々の動きは活発化しています。感染症が落ち着くためには、数ヶ月前のように人の動きを止めることが望ましいのですが、それでは社会生活、家庭生活が成り立ちません。そうかといって不注意に活動を活発化させると感染の恐怖がつきまとう毎日です。矛盾のある毎日ではあります。私たちの学校生活はその中にあり、体調管理に注意しながら、そして本校では、専門家のご指導をいただきつつ、グループ学習や実験を少しずつ取り入れたり、部活動を実施したり、学校行事を行ったりの毎日です。

人間の活動が活発になると、人はその中で、人との交流の広げ方、折り合いのつけ方を学び、他者の振る舞いを見ながら、自分自身の個性にも気付いていきます。他者の意見やパフォーマンス、話し合い等から自分自身を知るきっかけが生まれます。しかし、人と交流する事はよい面だけではなく、ストレスも発生します。誰かが目立つ事によって、だれかが埋もれてしまう可能性があります。誰かが活躍すると嫉妬が生まれます。誰かが褒められると誰かがやっかみます。人間が活動する限りにおいては、永遠の課題だと思えます。一生懸命に頑張っただけ認められたり、成果が発揮されたりしている者でも、その努力の過程でのストレスが他者に向かう場合があり、周囲を傷つけてしまう事があります。何気ない日常の言動は、互いに傷つけ合う言葉や行動に変わってしまう場合があります。その言動が他者を傷つけてしまっている事に気付かない事も多くあります。受験勉強のストレスが親や他者に向かってしまう場合もありますよね。

コロナ禍の中、学校生活は現在のところ無事に5ヶ月が経過し、6ヶ月目に入りました。皆さんの動きも活発になっています。活発に動くとうまくも起きています。事象や人との関係に摩擦が生じる場合があります。社会では、コロナ禍での誹謗中傷が続いています。自分自身の不安やストレスは、他者を攻撃することによって満足させられることは絶対にありません。

皆さんが日々の生活の中であいさつを交わしたり、ボランティアの保護者の方々に感謝の気持ちを伝えたり、感謝の気持ちを示す横断幕を作成したり、学級内で人間関係を見つめ直す授業をしたり、「いじめ防止きずなキャンペーン」で自分を振り返ったりすること等、これらがとても大切な意味がある事だと思えます。

皆さんが休校期間に「当たり前毎日の大切さに気付いた」ということをもう一度思い出してみることが必要だと思えます。「当たり前毎日」とは、互いに思いやり、支え合う毎日だと、とても大切なことに気づき、学校生活を送ってくれていると思えます。私も皆さんから学んだことがたくさんあります。この「当たり前の日々」を大切に思い続ける重要性も同時に分かったことですね。今年のキャンペーン期間はいつもと違う何かを知る大切な機会にしたいですね。